

東海支部結成の経緯 川合貞行様（21期）ご講演

秋山直文さんには、この会の創立にあたり非常にお世話になりました。若くしてお亡くなりになられまして、非常に残念でした。昭和50年の夏の時の工学部同窓会長、大石宏さん、東京電力で工学部第一期の方であります。大石さんから秋山さんに電話がありまして、同窓会の件でお願いしたいので、名古屋へ行きますのでお会いしたいという話がありました。当時私は、中部電力の藤原会の幹事を、本日はいらっしやいませませんが松村さんと二人でしておりまして、秋山さんに呼ばれて、二人同行してくれといわれました。昼ごろお着きになったので、昼を食べながらお話を伺いました。昭和50年に卒業生が1万人を突破したそうでありまして、同窓会のきずなを深めるために、各地に支部を作りたいというようなことで、まずは手始めに名古屋に支部を作っていたいただきたいという願いがありました。年内に準備会を発足させたいということでした。

それを受けまして、3人でいろいろ話し合ったわけですが、まず支部規約を作らなければいけない。何ぶん初めてのことなので何をやったらいいかわからない。私の上司に徳島大学の方がおられまして、規約ならうちの学校にある、これを参考にしたらどうかと言われてまして、それをお借りしましてアレンジして原案を作りました。本部といろいろ相談をしまして、これならいいだろうと了解を得ました。

それからこの辺の会員が何人いるのか、全然わからなくて。当時昭和49年の卒業生名簿がありまして、巻末に会社別に卒業生の名前が書いておりました。この地方 愛知、岐阜、三重の本社のある会社、それから工場等にいる卒業生を腕力で切り出しまして、大体150名ぐらいいました。それで、150名の中から老壮青、老には現役世代はいなかったの、壮青でなるべく満遍なく行き渡るように役員候補を選びまして、3人で手分けをして電話をしてお願いをしました。大体20人ぐらい内諾を得たのですが、その中から16名ぐらいを役員として選定しました。それで、問題は怎么样って案内文を発送するかですが、3人であて名書きをしていたら大変だと思っていたところ、本部とやり取りしている中で、あて名システムというものがあって、名簿とシールを送ってくれたら本部で発送しますよと言ってくれました。これは本当に助かりました。

12月6日に結成準備会を名古屋郵便貯金会館でやりました。今はもうありませんが、東海テレビの北の方にありました。結成準備会には同窓会の大石会長、当時の工学部長の森為可（もりためよし）先生が出席されました。森先生には学生の時から非常にお世話になっておりました。この席で、支部の規約、支部の役員が承認されました。初代の会長に伊藤英哉（いとうひであ）さん、電気の1期のかたですが、まだご健在なのですが、こういう席にはいらっしやらないということなので、本当は伊藤さんにお話を伺うのが一番よかったのですが、私が代わって経緯を説明しました。本部の会則の改訂が遅れましたので、昭和51年の3月2日に、工学部同窓会地方支部規定が制定されまして、それをもって、東海支部の規約も施行されました。以上です。

